起業家精神の育成をテーマとする演習の開発

ー演習を通じたいくつかの気づきー

石井 信明・太田 修平　　神奈川大学工学部経営工学科

神奈川大学　全学共通教養課程では、テーマ演習として複数の演習科目を開講している。その中から、起業家精神の育成を目的とした演習を紹介する。演習では、工学部経営工学科で使用する教材を基礎とし、システム思考などの工学的要素を組み込んでいる。本報では、演習の概要と教育実践から得られた知見、および今後の課題を報告する。

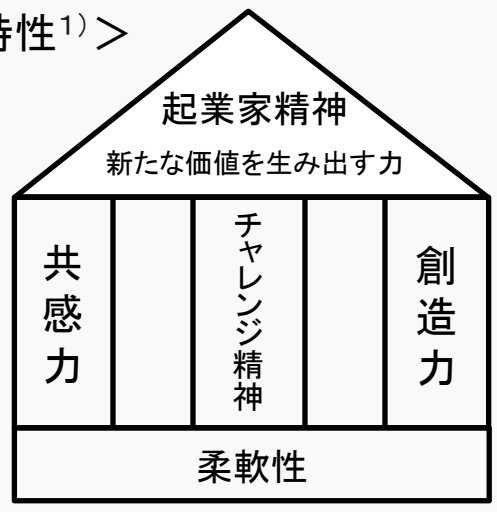
起業家精神とそれを支える行動特性

起業家精神

「様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神」（https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/）

＜起業家精神を育てる4つの行動特性[1)]＞

- 創造力：これまでにない仕組みを生み出す力
- チャレンジ精神：失敗を恐れず挑戦する力
- 共感力：上手に話を聞き自らの考えを伝える力
- 柔軟性：資源制約と環境の変化に対応できる力



起業家精神を支える行動特性の関係

演習の概要　（https://webstation.kanagawa-u.ac.jp/html/kyoumu/index.html）

科目名	テーマ演習／アイデアをデザインする演習 ―AI時代の創造性と起業家精神を育てる―
目的	システム思考と協働を通じて社会問題を発見･解決する能力、起業家精神を育成
到達目標	● システム思考により社会の問題を発見する姿勢を理解 ● 情報システムの活用により問題を解決する発想の習得 ● 問題解決への起業家精神の重要性の理解 ● アイデアを具現化する企画力、マネジメント力の習得
教材	● 経営工学科専門科目で使用する教材を再構成 ● ティナ･シーリグの実践例[2)]を参考に作成
進め方	● 前半：システム思考、問題の発見とアイデア創造プロセス、情報システムの企画･設計技術およびツールの学修 ● 後半：問題発見から、情報システムの企画書、概念設計までを実施（グループワーク） ● 最終日：成果のプレゼンテーション（ポスター発表）
受講生	● 工学部に限らず、経済学部、法学部など多彩

演習の構成

企画･設計　(8～13)			
問題状況と問題の理解 (2)	モデリング (6、8)	モノ作りプロセス (5、7、8)	マネジメント技術 (8～13)
システム思考、批判的思考 (3、4)			

数字は対応する回を示す。

- 起業家精神を育てる行動特性を、個別技術と演習後半のグループワークで育成
- システム思考、批判的思考の醸成を基礎として構成
- アイデアの具現化に用いる手法を繰り返し学修

Ex) リッチピクチャー、ブレインストーミング、システムモデリング、Kaplaブロック

- グループ作業の管理手法を学修

演習の成果物

【各グループの独創的なアイデア】

- グループA: 「繋がらない」から考える安全なSNSの付き合い

受信者側の反応を予測してからメッセージを送るアプリ



- グループB：規格外野菜の直販アプリ

生産者が、規格外の野菜を直接小売店のサイトに登録、販売場所を知らせるアプリ



いくつかの気づきと学生による授業評価

【いくつかの気づき】

- 起業家精神の育成は、工業教育、教養教育に欠かせない
- ブレインストーミング、リッチピクチャーの手法に戸惑い
  - ➔問題状況、問題、解決方法を分けて考えることが苦手
- 後半のグループワークでは、演習前半で学んだことが定着した様子
  - ➔新たな手法には繰り返しの学修が必要

【学生による授業評価】

- 「新しい視点･知識が得られた」、「将来への役立ち」に高評価
- 「多くの人と議論することで、新しい発見が沢山あって良かった。」、「将来役に立つような情報が得られたことも良かった。」など、肯定的な評価
- 演習の速度、履修者数の増加を課題として指摘

まとめと課題

- システム思考と工学知を組み込んだ、共通教養科目における起業家精神育成演習の概要を報告
- 協働して企画立案に取り組んだことは、学生の貴重な経験
- 授業評価からも一定の教育効果が確認
- 演習の内容と方法を見直しつつ、共通教養科目における起業家精神育成演習として継続的に改善

参考文献

1. 石井信明、教養科目におけるアントレプレナーシップ教育の実践、工業教育資料、実教出版、420、pp. 12-16（2026）
2. ティナ･シーリグ、「（翻訳）新版 20歳のときに知っておきたかったこと」、CCCメディアハウス（2020）